

7 質問紙から見える本県の学校の姿

学校質問紙

(1) 小学校

本県の学校には、全国と比べてこんな良いところが！

【近隣等の中学校との連携】

- 「近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」
75.2% (全国比+5.7%)
- 「近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」
69.8% (全国比+6.7%)
- 「平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した」
66.0% (全国比+2.7%)

【家庭学習の取組の充実】

- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」
91.2% (全国比+6.8%)
- 「保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った」
98.8% (全国比+1.6%)
- 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」
93.2% (全国比+1.6%)
- 「家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」
93.8% (全国同等)

【規範意識、自己有用感の育成】

- 「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底した」
98.2% (全国同等)
- 「児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている」
92.0% (全国比+2.6%)
- 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」
90.6% (全国比+7.3%)

気を付けたいところは…

- 「職場見学や職場体験活動を行っている」
31.8% (全国比-15.7%)
- 「ボランティア等による授業サポート（補助）を行った」
38.2% (全国比-11.0%)
- 「個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している」
83.2% (全国比-4.0%)

※ 教育課程の接続や、全国学力・学習状況調査の分析結果の共有及び合同研修の実施等、近隣の中学校との連携が全国平均よりも高い割合で実施されている。今後も連携することを大切にしたい。

※ 将来就きたい仕事や夢について考えさせた割合は全国よりも高くなっているが、実際に職場見学や職場体験活動を行っている学校は少ない現状がある。学習した内容を社会と結びつける活動に計画的・継続的に取り組み、児童の自己有用感を高めたい。

(2) 中学校

本県の学校には、全国と比べてこんな良いところが！

【近隣等の小学校との連携】

- 「近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」 77.4%（全国比+8.2%）
- 「近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」 82.8%（全国比+6.3%）
- 「平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した」 66.9%（全国比+2.9%）

【家庭学習の取組の充実】

- 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」 93.3%（全国比+6.2%）
- 「保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」 95.9%（全国比+4.0%）
- 「家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」 93.7%（全国比+3.5%）
- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」 76.1%（全国比+2.4%）

【規範意識、自己有用感の育成】

- 「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底した」 99.6%（全国比+1.3%）
- 「学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った」 98.7%（全国同等）
- 「生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている」 94.1%（全国同等）

気を付けたいところは…

- 「ボランティア等による授業サポート（補助）を行った」 22.1%（全国比-10.9%）
- 「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」 90.0%（全国比-3.9%）
- 「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行った」 77.4%（全国比-2.4%）

※ 家庭学習について、教職員で共通理解を図った上で、具体例を示すとともに、保護者へも取組を働き掛けている。今後も調べたり文章を書いたりする課題を与え、評価及び指導まで確実に実施したい。

※ 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った学校が前年度から6%以上増えている（平成29年度は92.3%）。生徒質問紙で「自分には、よいところがあると思う」と答えた生徒も78.9%（平成29年度は68.3%）と前年度よりも10%増加している。今後も生徒の自己有用感を育む取組を進めたい。